

郷土新聞取材のこつは？

県立図書館 記者ら中学生に伝授



県中学生郷土新聞コンクールに向け、記事の書き方や見出しの付け方などのポイントを伝授する講座（県中学校教育研究会社会科部会、県文書館、福井新聞社主催）は22日、福井市の県立図書館で開かれた。中学生約50人が、日ごろの疑問をテーマに取材することなどを学んだ。

福井新聞社の徳島泰彦NIEコーディネーターと、メディア整理部主任の柴田裕介記者が講師を務めた。柴田記者は「何を聞きたいか事前に考えておく。ただ、話を聞く中で疑問が出てきたら、臨機応変に対応してほしい」と取材方法をアドバイスした。

徳島コーディネーターは新聞記事を見せながら▽原稿は結論から先に書く▽見出しは7〜12文字でつける▽見出しと説明。「見出しに正解はない。記事も見出しも自分の思いを込めて」と強調した。「普段疑問に思っていることを掘り下げていくと、いい作

新聞記者らが中学生に郷土新聞づくりのポイントを伝授した講座＝22日、福井市の県立図書館



品ができる」とエールを送り調べて、まとめていきたい」と話していた。

進明中2年の加藤千智さんは「記事の書き方などがよく分かった。福井の土産をテーマに新聞を作る予定。しっかりと新聞を作る予定。しっかりと新聞を作る予定。しっかりと新聞を作る予定。」

講座は29日午後1時から、小浜市の県立若狭図書館学習センターでも開かれる。

（牧野将寛）